

1 実践したい授業 地域課題×学習者主体の授業

10～11月にかけて10時間ほどで地域の地層の成り立ちや堆積岩の成り方や地形の特徴について学び、秋川のジオの魅力や活用法について発表し、発信する？という授業を行いたい。

10時間の中で外部の方々（ジオの会、自然探究スクールフォースウェルネス、学芸大学の教授小泉先生）にジオの魅力や内容について教えてもらったり、助言をもらったりする。またそれを受けて生徒が作成した資料や考えたアイデアを発表し外部の方々に還元する。

子どもたちが受け身の授業にならないように、子供が学習計画を立て、自分で決めた方法で調べ考えるようサポートし、自律した学習者になることを目指した授業を行いたい。（令和5年 東京都教育庁総務部教育科令和5年3月より）

2 あきる野のジオを取り巻く学校と地域の現状と課題

【あきる野市で観察できる地質】

- ①四万十帯：白亜紀 1億～1650万年前の海底に堆積した砂と泥が岩石になった岩石
- ②秩父帯：ジュラ紀 3億～1億5千万年前に大洋の海底に堆積したプランクトンやサンゴの岩石、チャート（神戸岩）や石灰岩（三ツ合鍾乳洞・大岳鍾乳洞）
- ③五日市盆地：1500万年前の日本列島形成期の地層
- ④古生代から新生代までの化石たち フズリナ・ミエゾウ・アキシマクジラ

○学校の現状と課題

地域の人材や資源を活用するようなカリキュラムマネジメントの実現が求められているが現状として、市内の小中学校において地域の資源や人材を活用した理科の授業を行っている学校は少ないのでは？子どもたちはあきる野市のジオについて知らないのでは？

小学校で1校行っている程度（小学校12校中、中学校6校中）

→あきる野市の中学校の理科教員にアンケートを取ったほうが良い。各学校にアンケートを取らずとも、東中の子供にあきる野の大地についてどれだけ知っているのかアンケートを取るのもよいかも。

○地域の現状と課題

あきる野市の大地について調査・研究を行う秋川流域ジオの会があり秋川流域の大地について一般の人にも知識を広めているが、所属しているのは高齢者が多く、若い世代が会に入ってくれず、後継者がいないのが課題と会の方が話していた。ジオの会は年会費2000円、月一程度の勉強会が週末にあり巡検も行っている。

ジオの価値を知っている人でもジオを観光やビジネスにどのように活用したらよいかかわからない。学習したことをパンフレットにまとめているが、内容は専門的で一般受けしないところもある。

あきる野市に住んでいる人はあきる野のジオについて知らないかも。少なくともあきる野市に約50年ほど住んでいる先生3人にあきる野の地質について知っていることを聞いたが何も知らなかった。

3 現地に子供を連れてジオを見に行かないで、子どもにどうやってジオの魅力を伝えるのか？

- ・専門家からジオの魅力について語ってもらう・現地の動画
- ・剥ぎ取り地層